

終わりになき図書館ジャーニー vol. 12



京極町生涯学習センター湧学館(図書室)

京極(きょうごく)と言えば、京極の名水を想像する方が多いでしょう。また、作家の京極夏彦さんは町名とは無関係ですが、同じ後志地方の小樽市のご出身です。常にページ数が多く、とても厚い本を書かれる直木賞作家です。

札幌市から京極町へ公共交通で行くにはどうしても乗り換えが必要です。JR 札幌駅から乗車し、小樽で倶知安方面の列車に乗り換え、倶知安駅で下車。更にバスに乗り換えてようやく京極町に着きます。約 3 時間近くかかります。高速バスで札幌から喜茂別まで行き、京極方面に向かうバスに乗り変える方法もあります。接続などが良ければ 2 時間半ぐらいです。

京極町は羊蹄山の麓、北東に位置します。人口 2800 人ほど。京極町から見て、やや羊蹄山の裏手に位置するのがニセコ町です。

1986 年まで JR 胆振線で倶知安から京極まで行くことができました。この鉄道は太平洋側の伊達門別まで走っていました。私はあいにく乗る機会がありませんでした。

京極町市街地には宿がほとんどなく、常に満室状態。周囲のリゾート地に観光客が流れてしまうからでしょうか。市街地にホテル作って欲しいです。

町の郊外にふきだし公園があります。ここで「ふきだし湧水」に触れることができます。

羊蹄山に降った雨や雪がミネラル分を適度に含んだ名水として湧き出ています。1 日に湧き出す水量は約 8 万トン！水温は年間 6.5 度ぐらい。名水百選にも選ばれています。しかしあくまでも生水なので一度沸騰してから飲むことを推奨しています。なお、京極町の HP に逐次水質検査結果が公表されています。

<https://www.town-kyogoku.jp/kanko-event/fukidashi-park/yuusui/fukidashi-yusui/suishitu/>

こんなに水が美味しいので、何を食べても美味しいと信じてしまいます。しかし公共バスでしか移動出来ないの、行きたい店に思うようにいけません。「京極プリン」は図書館に近いのに時間が合わなくて食べられず。リベンジしないとはいけません。「京極プリン」はふるさと納税の返礼品にも入っています。

さて、京極町の図書室は2004年に完成した「京極町生涯学習センター湧学館」という複合施設内にあります。今年が開館20周年です。倶知安からバスで「京極公民館前」で下車すると目の前。施設では郷土資料コーナー、絵画や陶芸などの展示やコンサート、発表会など、常に文化や教育企画を行う住民の交流の場となっています。教育委員会もこの施設に入っています。

もちろん水に関する資料が充実しています。なお京極町は海に面していないので海に関する資料は少ないです。水、川、湖、ダム、水力発電などだけではなく、水に関する絵本なども積極的に選書しています。壁の書架に水関連の書籍が並んでいるのですが、やはり青い背表紙が多く、書架の色彩にインパクトがあります。

この夏、医師中村哲(なかむらてつ)氏の写真展と映画上映会を開催しました。中村氏をご存知の通り、病気と帰還難民問題を解決するため、アフガニスタンの用水路建設に多大な貢献をされた方。京極町は昭和20年代に無水地帯があったそうで、水の大切さという意識が強く受け継がれています。そこで中村氏の功績を伝え、改めて水の大切さを再認識しようと企画したそうです。

郊外に羊蹄山を眺めながら食事できるハンバーガーショップがあり、頑張って行ってきました。いつまでいても飽きない風景に時間が止まります。周辺はジャガイモ畑。

2024年7月訪問
加藤 重男